一般口演 | 1-08 電気生理学・不整脈

一般口演-16
QT延長症候群

座長:
立野 滋 (千葉県循環器病センター)
泉田 直己 (曙町クリニック)
Fri. Jul 17, 2015 10:00 AM - 10:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)
II-O-11～II-O-15
所属正式名称：立野滋(千葉県循環器病センター　小児科)、泉田直己(曙町クリニック)

[II-O-11]運動負荷試験における負荷開始時 QTc測定についての有用性の検討

○岡川 浩人 (地域医療機能推進機構滋賀病院　小児科)
Keywords:QT延長, 運動負荷心電図, 学校心臓検診

【目的】学校心臓検診の QTc延長に対する運動負荷心電図において、負荷終了後の心電図の有用性が報告されている。今回、運動負荷開始時の QTc測定と負荷終了後の QTc測定が、 QTc延長のリスク評価に有用であるか、比較検討したので報告する。【方法】対象は2007年から2014年までに学校心臓検診で QTc延長と診断され当科で精査した50名(6歳3月-18歳1月、中央値12歳0月）。 Bruce protocolによりトレッドミル運動負荷心電図検査を施行し、負荷前、負荷開始時、負荷終了直後、負荷終了後3分、6分の QTcの変化を検討し、 QTcの変化がリスク検出に有効かを検討した。【結果】負荷開始時に QTcが延長し QTc延長診断基準を満たす症例は14例あり、負荷前に比べて QTcは有意に延長していたが、負荷終了後3分、6分時の QTcは負荷前と有意差は認めなかった。一方、負荷終了後に QTcが延長し診断基準を満たす症例は7例であったが、負荷前と比べて、 QTcの延長は有意ではなかった。リスク層別化の検討では、 QTc延長高リスク群の鑑別には、負荷開始時の QTc延長が有用であったが、負荷終了後は有用でなかった。【考察】従来の報告と異なり、今回の検討では、運動負荷終了後の QTcが安静時心電図 QTcに比べて有意に延長しているという所見は得られなかった。一方、運動負荷開始時の QTc延長は安静時心電図の QTcに比べて有意に延長しており、高リスク群の検出にも優れていた。運動負荷心電図の QTc測定は負荷終了後だけではなく、負荷開始時の QTc延長についても検討するべきと考えられた。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery